

◆ 講話 ◆ テーマ 「学校管理部門をめぐる諸課題についての最新情報」
講師 横浜第一社会保険労務士事務所 代表 田中 崇 司

◆ 講演 ◆ 演題 「私立中学・高校入試の最新事情と広報の課題」
講師 安田教育研究所 代表 安田 理

◆ 講義 ◆ テーマ 「中高生のインターネット利用最新事情と学校運営上の課題」
講師 ピットクルー株式会社 室長 高橋 大洋
インターネット利用者行動研究室

◆ 研究討議 ◆ 「各参加校の入試広報活動と情報社会における安全対策についての諸課題」
I. グループ別討議 (90分)
II. 全体会 (60分)
*各グループからの報告 *情報交換(交流会) *総括

◆ 講師・指導講師(順不同) ◆

田中 崇 司 (横浜第一社会保険労務士事務所 代表・社会保険労務士)

昭和47年生まれ。東京大学文学部卒業(労働社会学ゼミに所属)。TBSテレビ報道局記者(旧文部省や旧労働省を専門に担当)、朝日新聞記者などを経て、社会保険労務士を開業。

教育と労働の関係法令、両方に詳しい社労士として、幼稚園から大学まで多くの私立学校に関する、就業規則の改定、労務問題の相談、労働基準監督署の臨検対応に携わっている。

また、社労士業の傍ら、平成25年度から2年間、神奈川県労働局の非常勤職員として労基署の窓口業務にも従事。行政官の経験から得た知識も踏まえ、全国で私立学校の理事長・校長・事務長・事務担当者に向けた講演を多数行っている。

安田 理 (安田教育研究所 代表)

東京都出身。大手出版社にて雑誌の編集長を務めた後、教育情報プロジェクトを主宰、幅広く教育に関する調査・分析を行う。2002年、安田教育研究所を設立。講演・執筆・情報発信、セミナーの開催、コンサルティングなど幅広く活躍中。日本経済新聞、朝日小学生新聞、各種受験情報誌、ベネッセ「高校合格言」など各種新聞・雑誌、ウェブサイトにもコラムを連載中。
<http://www.yasudaken.com>

高橋 大洋 (ピットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室 室長)

コンピュータウイルス対策事業者、フィルタリング事業者等を経て現職。専門家会議「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」には設立時点より参画し、事務局主幹スタッフとして、調査研究実査や、報告書構成編集を担当。省庁・自治体の各種検討会委員の他、保護者、教職員、ボランティア指導者、児童生徒向けの講師実績多数。平成26年度からはNTTドコモ安全教室教材制作の外部アドバイザーも務める。

◆ 専門委員・客員研究員・指導員(順不同) ◆

工藤 誠 一 (聖光学院中学・高等学校 理事長・校長)

森本 純 生 (高崎商科大学附属高等学校 理事長・校長)

正村 幸 雄 (学校法人鹿児島学園 理事長)

野尻 富太郎 (芝中学・高等学校 常務理事・事務局長)

富本 道 宣 (富本教育研究所 所長)

川本 芳 久 (一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長代行)

◆ 日程細目 ◆

主会場：私学会館（アルカディア市ヶ谷）6階「阿蘇」

	受 付 ・ 資 料 配 布	
9:30	◆ 開 会 式 1. 開会の辞 2. 専門委員長挨拶 3. 日程説明 4. 閉会の辞	〔司会：川本芳久〕 法人管理事務運営専門委員長 工藤誠一
9:50	◆ 講 話 テーマ 「学校管理部門をめぐる諸課題についての最新情報」 講 師 横浜第一社会保険労務士事務所 代 表 社 会 保 険 労 務 士 田 中 崇 司	〔司会：富本道宣〕
10:30	◆ 講 演 演 題 「私立中学・高校入試の最新事情と広報の課題」 講 師 安田教育研究所代表 安田 理	〔司会：森本純生〕 〔講師紹介：工藤誠一〕
12:00	◆ 昼食・情報交換会（グループ討議の各会場にて） Aグループ 〔司会：森本純生〕 〈会場：4階 鳳凰（東）〉 Bグループ 〔司会：正村幸雄〕 〈会場：4階 鳳凰（西）〉 Cグループ 〔司会：野尻富太郎〕 〈会場：7階 妙高〉 Dグループ 〔司会：富本道宣〕 〈会場：7階 白根〉	
13:00	◆ 講 義 テーマ 「中高生のインターネット利用最新事情と学校運営上の課題」 講 師 ピットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室 室 長 高橋大洋	〔司会：野尻富太郎〕 〔講師紹介：工藤誠一〕
14:30	◆ 研究討議 「各参加校の入試広報活動と情報社会における安全対策についての諸課題」 I. グループ討議 Aグループ 〔司会：森本純生〕 〈会場：4階 鳳凰（東）〉 Bグループ 〔司会：正村幸雄〕 〈会場：4階 鳳凰（西）〉 Cグループ 〔司会：野尻富太郎〕 〈会場：7階 妙高〉 Dグループ 〔司会：富本道宣〕 〈会場：7階 白根〉	
16:00	II. 全体会 〔司会：正村幸雄〕 *理事長挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 *各グループからの報告 *情報交換（交流会）	
17:00	◆ 閉 会 式 1. 開会の辞 2. 研修会総括（専門委員長挨拶） 3. 閉会の辞	〔司会：正村幸雄〕 法人管理事務運営専門委員長 工藤誠一
17:30		

「学校管理部門をめぐる諸課題についての最新情報」

講 師 横浜第一社会保険労務士事務所 代 表
社会保険労務士 田 中 崇 司 先生

平成28年1月から社会保険・税・災害対策の3分野で活用されるマイナンバー制度の概要と注意点、対応策と平成27年11月から変更となる公的年金制度の一元化について、その目的と具体的な変更点、今後の問題点などについてご説明いただいた。ポイントを絞った的確な最新情報をお話いただき、早急な対応を求められている担当者にとって心強い研修となった。

I. マイナンバー制度の概要

マイナンバーとは、政府が「日本国内に住民票を有する人」ひとりひとりに無作為につけたその人固有の番号で、外国籍の人も含まれる場合がある。

これは、公平・公正な社会の実現、行政の効率化、国民の利便性の向上を目的として導入され、学校法人においては、給与所得に関する源泉徴収事務のほか、今後は就学支援金に関する書類にも必要となることが決まっている。

正確な利用とともに、なりすましなどの悪用を防ぐため、高度な秘匿性が求められており、これまで以上に個人情報の漏えいに対するリスクに注意することを理解しておくことが重要である。

今後のスケジュールとしては、平成27年10月に「通知カード」が発送され、平成28年1月から利用が始まる。源泉徴収票の様式が大きく変わるため、職員ならびにその扶養親族にかかわる給与所得に関する税、顧問税理士・顧問弁護士などに対する報償費に係る税について、対象者一人ひとりのマイナンバーを把握しておく必要がある。

あわせて「個人番号カード」の発行が始まる。ICチップが組み込まれおり、今後、さまざまな用途で利用ができることになっている。将来は健康保険証などとしても、その利用が検討されている。

マイナンバーを利用できる目的は法律で厳しく制限されている。まず、給与所得の源泉徴収に必要ということ特定し、職員に通知する必要がある。

また、マイナンバー及びそれに結びつけられた個人情報（特定個人情報）の漏洩を防ぐため、事業者には「基本方針」と「取扱規程」を定めるとともに①組織的安全管理措置（組織・体制の整備、情報漏洩等の事案に対処する体制整備）②人的安全管理措置（事務取扱者の明確化と監督）③物理的安全管理措置（パーテーションや施錠可能な棚の使用による設置特定個人情報を取り扱う区域の明確化、電子媒体の紛失の防止等）④技術的安全管理措置（適切なアクセス制御等）が求められる。

その管理にあたっては、①取得②利用③保存④提供⑤削除・廃棄の各段階が考えられる。マイナンバーを取り扱う給与システム等について外部会社に委託している場合には、そこから情報が漏洩しないよう監督する責任が生じる。

現時点では、体制の整備、マイナンバー情報収集対象者の洗い出し、職員への周知・教育、基本方針と取扱規定の作成・就業規則の見直し、安全管理措置の検討、システムに関する検討、委託先等の体制確認、外部関係者との契約内容の見直し、未提出者への対応などの対応策の検討が必要となる。

II. 私学共済と厚生年金の一元化的

年金制度の安定のため、厚生年金と共済年金の制度が一元化される。

現在、私学共済の年金は3階建てで「基礎年金」「共済年金の本体部分」「職域加算」で構成されているが、一元化後は「共済年金の本体部分」は「厚生年金」に統合、「職域加算」は廃止され「退職等年金給付」に代わる。

「共済年金の本体部分」に対する14.354%の掛金率は今後13.557%の保険料率となるが、「退職等年金給付」の掛金として1.5%が上乗せして徴収（労使それぞれで0.75%の負担増）される。そのうえ、保険料率は平成41年まで徐々に引き上げられ18.3%で固定される見通し。過去に「退職等年金給付」と合わせた保険料率は平成42年以降19.4%との試算もあり、その場合には、おおむね15年間で5%の増加となる。

給与総額の伸びがゼロであったとしても、保険料率が毎年引き上げられるため人件費は毎年右肩上がりとなる。私学にとって極めて厳しい制度の改編といえる。今後はより一層社会保険料を含めた「総額人件費の管理」が重要な課題となる。



「私立中学・高校入試の最新事情と広報の課題」

講師 安田 教育研究所 代表

安田 理 先生

長年にわたる首都圏の中学・高等学校の入試情報の蓄積から導き出された、中学募集と高校募集の違い、学校種による違い、社会環境による保護者のニーズの変化などの分析を基に、最新の私立中学・高等学校の入試事情と広報の課題についてのお話をいただいた。学校の広報に求められている技術的な問題や各職員の役割に留まらず、学校の基本理念から考える広報のあり方をご教授いただき、広報に対する考え方を根底から見直すような、示唆に富んだ研修となった。

I. 中学募集・高校募集の関係

東京の私学を例にとって述べてみよう。サラリーマン層の実質賃金の低下などにより、私立中学入学者数は2009年から漸減傾向にあったが、2015年は一転増加した。一方私立高校入学者数は、国の就学支援金ほか東京都の授業料軽減助成などにより2012年以降漸増傾向にある。また高校の募集状況は、公立高校の入試制度変更の影響を強く受ける点が中学募集と異なる点である。最近の入試状況から、私立中高一貫校の入学状況を見ると、内進生（併設中学からの進学者）の比率が低下し、公募生（外部生）の比率が上昇する傾向になっている。



中学募集において特徴的なことを挙げると、入試回数の増加（午後入試も急増）、多様な入試スタイルの出現（適性検査型、英語入試、思考力テストなど）もあり、入学率（合格発表者のうちの入学する割合）は急激に低下している。また、入試規模が大きな目立つ学校への集中化が顕著で、地味な小規模校が年々苦しくなっている。学校種ごとの募集状況については、近年「共学志向」と言われるが、実際の中学入試ではまだ別学校受験者のほうが多くなっていて、一般的なイメージとは異なる。

一方高校募集においては、公立高校第一志望者が多いこともあり、共学校受験者が圧倒的多数になっている。さらに、中高一貫校に高校から入学するのはハンディがあるという受験生心理から、同じスタートラインに立てるということで高校単独校が人気である。そもそも高校単独校のほうが募集人員も多いということも受験生にとっては受けやすい。

II. 中学受験・高校受験での保護者の関心事の違い

中学受験での保護者の関心事を3つ挙げる。

- ・志望校が、生徒が巣立つ「グローバル社会」を意識した教育を行っているか。
- ・志望校は、2020年からの大学入試改革に対応しているか。
- ・志望校の授業は、「アクティブラーニング」を意識したものになっているか。

一方高校受験の保護者は、グローバル教育、大学入試改革、アクティブラーニングといったものにはほとんど関心がなく、「内申点と出願基準」「学費」「大学受験力の向上」といった現実的なものに関心を示すことが多い。

III. 私学の広報を考える

多くの学校、保護者と接していて、広報について感じていることを5つほど挙げたい。

- ・「誰でもいいからいらっしやい」という募集の仕方は誰もつかめない。
- ・「学校説明会」は、学校の説明だけでなく、「子どもの成長」「子育ての難しさ」について語ったほうが保護者の共感を得られる。
- ・「塾回り」で何とかしようとしている学校は、いつまでも苦戦状況から脱出できない。
- ・「優秀な1人の広報部員」は「13人の平凡な広報部員」に勝つ。
- ・HPの更新で学校の熱意が測られている。

IV. 最後に

今多くの保護者は、具体的なスキル、リテラシーを付けてくれる自動車教習所のような学校を選択する傾向にある。が、総体として人間性を育てることにこそ学校の存在意義があるので、是非そこを目指していただきたい。

「中高生のインターネット利用最新事情と学校運営上の課題」

講 師 ピットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室
室 長 高 橋 大 洋 先生

様々な通信機器や簡単に発信できるインターネットのアプリが次々に開発され、中高生の利用による様々な事件が起こっている。また、安易なインターネット発信が原因となる想定外のリスクは、本人のその後の人生や家庭、学校などの周囲へ影響が広がっていく。その実例をいくつか紹介いただき、さらに実際の生の配信映像を見ながらその実態を体験した。生徒のインターネット利用に関する実態把握や、段階的な指導、保護者との連携など、学校の組織的な取り組みの重要性と必要性をわかりやすく解説いただいた。

I. 「子どものインターネット利用問題」について学校管理部門が学ぶ必要性

最近の生徒のインターネット利用はソーシャルな発信型になっており、軽い気持ちで行ったいたずらや不適切な発信から、本名や学校名などプライバシー情報が拡散することがある。この情報は残り続け、本人に不利益をもたらすことはもちろん、学校の評価も落とすことになる。このようなトラブルを防止するため、子どものインターネット利用問題についての理解が、教員だけでなく学校管理部門にも必要となっている。



II. 子どもたちのネット活用の最新の状況

現在、子供の周囲には携帯ゲーム機、据え置きゲーム機、携帯音楽プレーヤーや契約切れのスマートフォンなど多岐にわたるインターネット機器がある。いずれもWi-Fi経由でインターネットに簡単に繋がるため、小学校入学前から利用を始める子供が増えるなど、デビューが低年齢化している。成長につれて勉強に関する情報交換や友人作りに利用され、就活にも欠かせない。子供の成長段階ごとの使い方をしておく必要がある。

子供たちにとっては動画の共有も特別なことではなくなっている。ツイキャスなどのスマートフォン用動画アプリでは簡単に生放送ができるため、軽い気持ちで私生活をさらしながら利用している。インターネットで知り合った相手からの性暴力被害など身体生命への危険につながることもあるし、プライバシー情報の拡散による名誉回復が困難なトラブル、長時間利用による健康や生活への悪影響などの深刻な問題が起きている。

これら過剰な利用や不適切な利用の背景には、知識・理解の不足、相手を喜ばせたいという深層心理、孤独で満たされない気持ちなどがある。子供の周囲には多くのインターネット機器があって「隔離」は難しいし、危険だとわかっているにもかかわらずやってしまうことがある。根気強く、発達段階にあわせて指導することが必要である。人として守るべき道徳的な知識と情報技術の知識を持ち、バランス良く判断出来る子どもは大きな失敗は起こさない。日進月歩の進化をする情報機器の性能や形態、サービスの変化に子どもは強く、大人は苦手意識を持ちやすいが、それは適切な利用に必要な知識の中ではほんの一部分に過ぎない。大人も子供も、まずはじめに、インターネットは公開されるものでそれは取り消せないこと、メディアコミュニケーションによる発信は、語りすぎやすいが相手に真意が伝わりにくいことなどについて正しく理解しておく必要がある。

III. 学校管理部門が取り組むべきこと、できること

学校での情報モラル指導の現状は、機器の持ち込みの禁止や電源オフ等に留まり、トラブルが発生してから後追いの対応となる例が少なくない。先進的な取り組み例としては、学校としての情報モラルの基本方針が確認され公表されている、生徒のインターネット利用の実態把握と情報モラル指導に対する教員の取り組みが充実している、年間指導計画が作られている、生徒自身がルール作りや後輩指導をする、保護者向けに情報提供をする、定期的な調査やモニタリングをする、トラブルが起きたときの対処ができるよう、予め危機管理体制への組み込みをしているなどが挙げられる。

情報モラル指導の取り組みが遅れると、生徒本人の不利益だけでなく、社会からの学校への信頼を損なう危険があるという意味で、学校運営上の大きな課題である。このことを理解して、一部の熱心な教員に任せるなどでなく、組織的な対策をとってほしいと思う。

研究討議

「各参加校の入試広報活動と情報社会における安全対策についての諸課題」

◆グループ討議◆

4つのグループに分かれて、各校の取り組み事例や課題等の情報交換を行った。入試広報活動については、費用対効果を上げるためのWeb利用についてやスクールアンバサダーの事例などについて、情報社会における安全対策については、講師の高橋大洋先生にも各会場を廻っていただきながら、Twitter等のモニタリングやLINEによるいじめの実態とその予防策、家庭との指導の連携方法などが話し合われた。また、講師の田中崇司先生に各グループを廻りながらマイナンバー制度に関する注意点のほか、現在の取り組み状況などが話し合われ、併せて労務関係の質疑応答も行われた。

□Aグループ (15名)

司会：森本純生（高崎商科大学附属高等学校 理事長・校長）

1. マイナンバー制度について
 - マイナンバーの提出を拒否する者に対する対応について
 - PTAなどの周辺会計から給与を支出している場合の取り扱い
2. 入試広報活動について
 - 広報費の費用対効果（チラシ・電車の中吊り・新聞・タウン誌・WEB）について
 - インターネットHPの利用、重視について
 - 学校説明会（オープンキャンパス・塾等への出張・海外・イブニング・夜）について
 - 教員主体の広報活動と事務の連携・事務の役割について
 - Web出願について（事務の効率化等）
3. 情報社会における安全対策
 - ツイッター、フェイスブックでの不適切な利用への対応について
 - ICTを利用する情報の授業、道徳の授業、HR等、折に触れての指導の促進について
 - モニタリングの業者委託について
 - 情報モラルに関する講演会（警察・携帯電話会社等）の開催について
 - 生徒の誹謗中傷等の書き込みに対する指導について
4. その他
 - 労務管理について（教員の残業代と非常勤講師の給与について）



□Bグループ (13名)

司会：正村幸雄（学校法人鹿児島学園 理事長）

1. マイナンバー制度について
 - 外部講師等への謝礼のマイナンバーの保存の取り扱いについて
 - システム管理外部委託業者との情報管理についての書面での契約（随契）について
 - 現在の取り組み状況について
2. 広報活動について
 - マスメディアへの対応における注意点について
3. 情報社会における安全対策
 - 生徒のツイッター利用等に関する安全管理について
 - モニタリングの問題について（外部委託・教員）について
 - 校外での制服の盗撮による被害への対応について
 - 携帯電話持ち込みの禁止・届け出制と、ICT教育の導入で全員がタブレット持参となる場合の利用と指導について
 - 情報モラル教育における家庭教育と道徳の重要性について
 - 情報モラル教育の年間計画の作成について
 - 学校での指導についての保護者への情報公開の方法と家庭教育の喚起について
 - 公立のガイドラインと違う指導方法をとる場合の理由付けについて
 - 先進的な取り組み例におけるその後の課題について
4. その他
 - 電子決裁について



□Cグループ(13名)

司会：野尻富太郎（芝中学高等学校 常務理事・事務局長）

1. マイナンバー制度について
 - 入試時のアルバイト等のマイナンバー収集の取り扱いについて
 - 特別個人情報の管理スペースとしての事務室整備について
 - マイナンバー収集方法（コピー等）と管理に関する注意点
 - 生徒のマイナンバー収集の可能性とその注意点について
2. 入試広報活動について
 - 中学入試の保護者の関心事とされる「アクティブ・ラーニング」への各校の認識と事例について
 - Web出願について
 - ホームページ、ブログ、スマホの活用と担当部署・職員について
3. 情報社会における安全対策
 - インターネット情報の検索・削除代行を請け負う業者の利用と総務省からの公的な紹介サイトについて
 - 学校側の予防策とそのアピールの重要性と実施状況について
 - 生徒のインターネット利用に対する実態調査の方法と実状について
 - LINEいじめに対する家庭教育との連携方法について
 - 限られたリソース（人・時間）の優先順位をどうするか。



□Dグループ(13名)

司会：富本道宣（富本教育研究所 所長）

1. マイナンバー制度について
 - 通知カードのコピーの管理について
 - アルバイト代の取り扱いについて
2. 入試広報活動について
 - スクール・アンバサダー（学校大使）からの学校の特色の再確認による情報発信や、生徒・保護者・卒業性等のクチコミ情報の重要性について
 - 広域募集の場合の広報活動について
 - 危機管理としての広報（マスメディアへの記者会見）対応の注意点
3. 情報社会における安全対策
 - 校内での授業や学習でのタブレット導入の現状。
 - タブレット学習の導入時ならびに携帯・スマホの持ち込み容認時の倫理観、道徳観の育成を含む機器の利用指導、モラル指導について
 - ツイッター等の書き込みチェック体制について、校内で行う場合の方法と人的負担、外部委託の場合の費用等について
 - 生徒指導部等と連携した組織的な指導体制について
4. その他
 - 労務管理について（教員の残業代・休日出勤の取り扱い等について）



以上

◆ 全体協議 ◆

最初に、吉田 晋理事長より挨拶として私学教育に関わる中央情勢の動きについての話があり、その後、各グループの記録者から各グループで話し合われた内容について、報告をいただいた。各記録者の先生方には、当日の突然の指名にも関わらず、多岐に渡るテーマについての討議内容を短時間でおまとめいただき、他のグループの方々にも情報を共有していただくことができた。その後は自由討議の時間とし、オープンで和やかな雰囲気の中で、いろいろな立場の参加者同士による活発な情報交換が行われ、全国各地で問題意識を共有し、励まし合えるネットワーク作りができる有意義な時間となった。最後に、工藤専門委員長が一日の研修を総括し、終了した。



(吉田理事長)

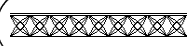
(Aグループ)

(Bグループ)

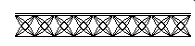
(Cグループ)

(Dグループ)

(工藤委員長)



参加者アンケート(まとめ)



回答者数：39名（72.2%）

- 当研修会へのご参加を決められた動機
 - * 入試広報に関する内容に関心があったから (9)
 - * 上司からのすすめ (8)
 - * 現在関心を持っているテーマだったから (7)
 - * 職位・職責に応じたスキルアップをはかるため(7)
 - * 最新の情報を収集するため (4)
 - * 学校経営に資するため (2)
 - * 毎回参加しているので(2)
 - * その他(2)

- 講話「学校管理部門をめぐる諸課題についての最新情報」について
 - * 講師の話し方、説明方法、説明内容などがよかった。(19)
 - * マイナンバー、公的年金一元化についての重要性がわかった。(12)
 - * マイナンバーの情報が聞いてよかった。(6)
 - * 今後の課題が明確になった。(4)
 - * 講演内容は理解できたが、今後の対応については困難を感じる。(6)
 - * その他(3)

- 講演「私立中学・高校入試の最新事情と広報の課題」について
 - * 数値によるデータからの分析や事例で、現状がよくわかった。(27)
 - * 講演に臨む講師の話し方や内容がよかった。励まされた。(8)
 - * 私学の学校運営の基本に立脚する視点からの広報活動のあり方として示唆を受けた。(7)
 - * 講演内容を広報活動に活かしていきたい。(6)
 - * 今後取り組みたい課題が明確になった。(5)
 - * 入試広報における役割に興味を持った。(2)
 - * その他 8

- 講義「中高生のインターネット利用最新事情と学校運営上の課題」について
 - * 最新の事例、具体的な事例がたいへん参考になった。(16)
 - * 今後の具体的な課題や指導方法がわかった。(13)
 - * 理解が深まったことで、現状の難しさを認識した。(7)
 - * 学校における情報教育以外にも倫理観を養う実体験の大切さ、家庭との連携による教育・指導の必要を感じた。(5)
 - * 講師の話し方や内容がよかった。(5)
 - * 現場での指導の必要を感じている内容で、今後の指導の参考になった。(4)

- 研究討議「各参加校の入試広報活動と情報社会における安全対策についての諸課題」について
 - I. グループ討議について
 - * 各校との情報交換が参考になった。(22)
 - * 進行方法等がよかった。(4)
 - * その他(8)

 - II. 全体会について
 - * 各グループ報告と交流会でより多くの情報がわかった。(11)
 - * 具体的な話ができて、今後の参考になった。(4)
 - * 吉田理事長の挨拶がよかった。(4)
 - * その他(4)

- 今研修会を通じて得られた成果を学校運営にどのようにいかしていくか
 - * 具体的な課題に取り組みたい。(15)
 - * 学校内で情報共有をはかり、学校運営に活かしたい。(10)
 - * 研修で得た知識や情報を参考にさらに検討・実行したい。(5)

- 今後の研修会研修テーマの希望
 - * 人事・労務管理について(5)
 - * 入試広報（生徒募集）(2)
 - * I C T環境の整備(2)
 - * その他のテーマ(12)

以上

❖❖❖❖❖❖❖❖ 都道府県別参加者数 ❖❖❖❖❖❖❖❖

都道府県名	参加人数	都道府県名	参加人数	都道府県名	参加人数
北海道	4	石川	—	岡山	—
青森	—	福井	—	広島	—
岩手	—	山梨	—	山口	—
宮城	2	長野	1	徳島	—
秋田	—	岐阜	2	香川	1
山形	1	静岡	1	愛媛	—
福島	—	愛知	2	高知	—
新潟	1	三重	—	福岡	3
茨城	3	滋賀	—	佐賀	—
栃木	1	京都	5	長崎	—
群馬	1	大阪	3	熊本	—
埼玉	—	兵庫	1	大分	—
千葉	—	奈良	—	宮崎	—
神奈川	3	和歌山	—	鹿児島	2
東京	17	鳥取	—	沖縄	1
富山	—	島根	—	計	55